

「国連合唱団日本公演」事業

広島・長崎・沖縄を舞台に恒久的な平和を祈り
国連合唱団によるコンサートを開催

2012年5月、国連合唱団の2回目の来日コンサートが開催された。会場は広島県、長崎県、沖縄県の3県。太平洋戦争で悲劇の地となった各県で開催されたコンサートでは、慰霊と恒久的な平和への祈りが捧げられた。さらに東日本大震災被災地への支援活動も行い、成功裏に幕を閉じた。

原爆の跡地を訪れた
国連職員たちの反応

国連職員からなる国連合唱団は、任意団体ではあるが、国連本部から音楽を通じて世界の平和に貢献するという親善大使の役割を公認されて世界各地で活動を行っている。2012年度は65周年を記念した日本公演が行われた。

この受け入れ機関として設立された国連合唱団東アジア公演実行委員会・日本支部の理事兼事務長の柴田静峯さんは、今回の公演について次のように語る。

「第一に先の大戦によって多くの戦没者のあった広島・長崎・沖縄の各県で公演を行い、不戦の誓いを新たに、永遠の平和と慰霊というメッセージを世界に発信すること。もうひとつは、東日本大震災による惨状をあらためて世界に伝えると共に、多くのご支援や励ましをいただいた世界中の皆様へ感謝の意を表したいということです」

今回来日したのはメキシコやロシアなど19ヵ国・30名のメンバーで、各地での公演の前後には、広島

料館や長崎の平和公園なども訪問した。

長崎の平和公園では、自然に鎮魂歌を歌い始め、広島では原爆体験者の言葉に涙するというひと幕もあった。

広島資料館では原爆の当事国であるアメリカの職員は当初、居心地が悪そうにそしらぬ顔をしていた。ところが、体験者などの話を聞くうちに態度は一変した。

「こんな惨劇は二度と繰り返してはならない。我々は世界中に伝えていくべきだと思う」。彼女はそう言って、誰よりも熱心に資料を見て回った。

「知識として知っているのと、実際に見るのでは違います。ですから今回どうしても3県にお招きしたかったのです」と柴田さんは語る。

広島県では、小学校を訪問し、最初に国連合唱団が日本語で「赤とんぼ」を披露すると、小学生たちが「ビリーブ」を歌ってお返しをした。子どもたちに折り鶴の折り方を習い、PEACEの文字の書かれた模造紙に貼ってメッセージを完成させた。

長崎県や沖縄県でも同様にふれあいの時間を持った。



ステージでは、それぞれの出身国の民族衣装を着て歌う



メキシコやロシアなど19ヵ国・30名のメンバーが来日



各公演で配布したプログラム

演奏技術の高さと多彩な演目で
最後は聴衆が総立ち

公演は、5月20日の広島市文化交流会館ホールを皮切りに、5月23日長崎市ブリックホール、5月26日沖縄コンベンションセンター、という強行日程である。

各県に実行委員会が組織され、強力なバックアップ体制を敷いたこともあって、どの会場も満員御礼となった。

ステージ上にはそれぞれの出身国の民族衣装を着たメンバーが並ぶ。国連合唱団ならではの独特の雰囲気だ。

今回、スペシャルゲストとして演奏した東京藝術大学・アジア総合芸術センターの古箏ソリストのマオヤさんは国連合唱団について「演奏レベルは非常に高いうえ、あらゆる国の音楽を取り入れているのが国連合唱団の魅力です」と解説する。

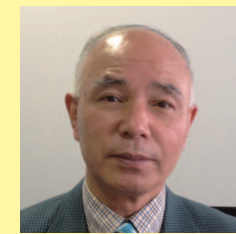
広島県でのコンサートを例として見ると、第一部は「ジョージが座っていた(ブルガリア)」、「ハバネラのリズム(スペイン)」、「民衆よ、泣かないで(南アフリカ)」、「ロサス・パンダン(フィリピン)」といった具合に実に多彩な楽曲が用意されていた。

ゲストとしては、3県すべての公演にマオヤさんが独奏と国連合唱団との共演を行ったほか、歌手で久石譲さんの娘さんの麻衣さんが、父親の作曲した「Stand



聴衆が総立ちになるほど盛り上がったコンサート

担当者より



AJOSCの助成で
平和のための公演が
実現できました。

国連合唱団東アジア公演
実行委員会・日本支部
理事兼事務長
柴田静峯さん

おかげさまで公演は大成功でした。各地での歓迎に職員たちもたいへん感動しておりましたし、原爆体験者との交流などを通じて、生の現実を伝えることができました。三県にまたがる公演で費用面の不安も多かったのですが、AJOSCの助成によって救われました。深く感謝申し上げます。

Alone)「坂の上の雲」主題歌)を披露。また世界的テノール歌手として有名な東京藝術大学教授の多田羅迪夫さんが登場して、歌劇「タンホイザー」を独唱した。さらに広島・長崎公演に加藤登紀子さんが出演し、「今どこにいますか」を心のこもった声で歌い上げ聴衆を魅了。沖縄県では、同県出身で全盲のテノール歌手・新垣勉さんが「さとうきび畑」などを独唱するなど、見どころ、聞きどころが満載。最後は聴衆が総立ちになるほどの盛況ぶりだった。

聴衆の一人は「国連合唱団?と最初はピンとこなかったけれど、こんなに素晴らしいコンサートだとは思わなかった。毎年でも来て欲しい」と賛辞を寄せている。

会場では東日本大震災の被災地に向けての募金活動も行われた。3日間で30万円が集まり、陸前高田市内の中学校へマリンバの贈呈などに使われている。

「いつの日か、復興した東北での公演を必ず実現したいと思っています」と、柴田さんは次の抱負を語った。